



げ
に
恋
し
き
は
友
の
ぬ
く
も
り

父×水 成人画

げに恋しきは友のぬくもり



今まで気にも留めなかった
薄暗い路地裏を覗けば



影もまたひとつ
増えていく




東京の街に
ネオンがひとつ
灯るたび



そこには

人から
身を隠して生きる
異形のモノたちが
いるという





あいつと酒が呑みたいなあ

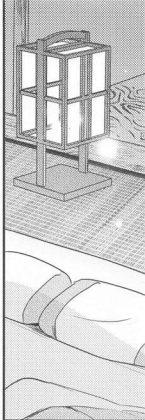


叶うなら

もう一度

FINA...





気にすることないよ
お兄さん

よくあること
なんだから

ふん...

激しい戦地せきごころに
行ってたんだね

体じゅう
傷だらけ

ねえ

あんた兵隊さん
だったんだろ



怖いかな？

いえ、あたしは
こんなだから
なに見たって
驚かないけどさ



大切なひとを
抱くときは

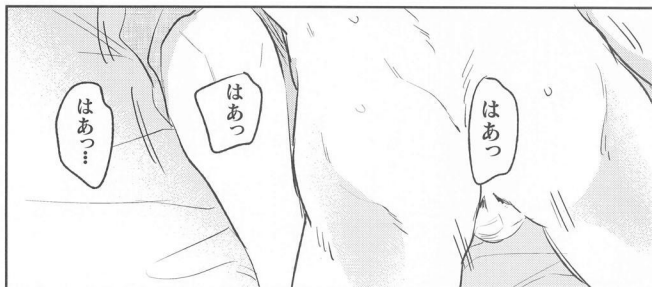
暗くしてやってね



大切な人…か

そんなもん
いないさ

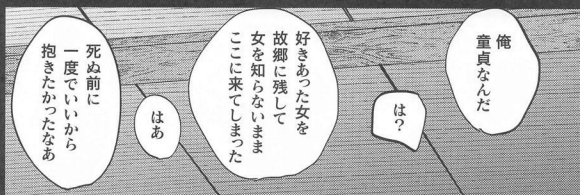
……

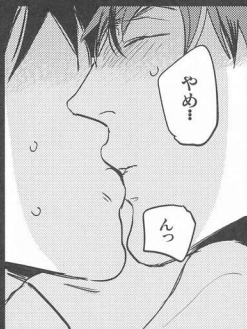


生きて還ってきたというのに

俺はいったい何をじているんだ







やめ…

んっ



お前何して…

正気を失ったか

声を抑えろ

俺は正気だ



いや

そんな相手は
いないが…

水木…

おまえには
大切なひとが
いるのか？



っあ…！

やめ…っ



なら構わん
だろう

それに

俺たちはどうせ
ここで死ぬんだ



それなのに



んっ

明日知らぬ身に

うっ

そんなものは
いらぬ

うっ



…それもそうだ

「大切なひと」



なんでお前だけ
生き残ったんだ



うわあつ

うわあつ



悪夢から醒めたら
ゲゲ郎の顔なんて…

勘弁してくれ

起きるなり
失礼なヤツじやの



また
うなされて
おったぞ

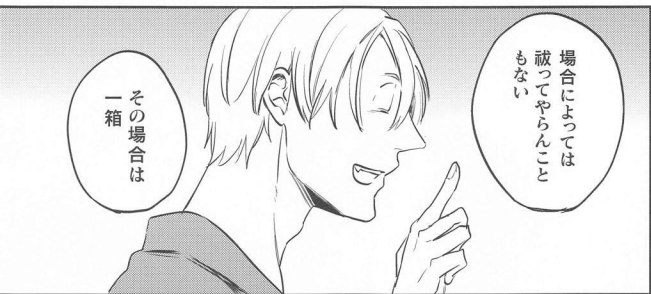
びびり
びびりした

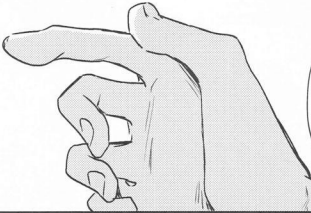


悪夢か



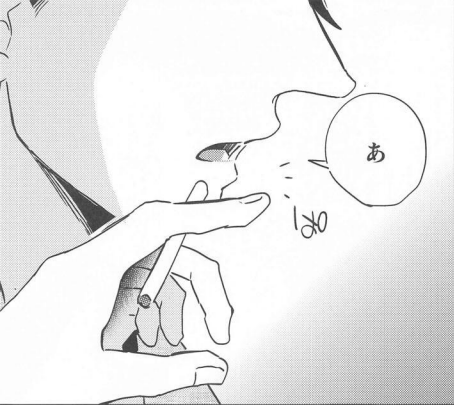
…悪夢だ





毎夜毎夜
うなされるおぬしに
付き合わされる
わしの身にもなつてくれ







どれ
子守歌でも
歌ってやろう

わしは歌が得意でな

……



オイ
こんな……
誰か来たら
どうするんだ

時ちゃんなら
今頃はぐっすり
寝ておる時間じゃろ





お前といると
調子が狂うな…

ゲゲ郎の傍は
こんなに落ち着くのだろう



水木

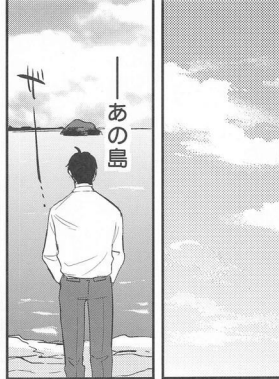
し
—
…

なぜ



臃げに見た
ゲゲ郎のあの表情…

あそこには
あいつの—



—あの島



一人で
惚けておると

また気を持って
いかれるぞ

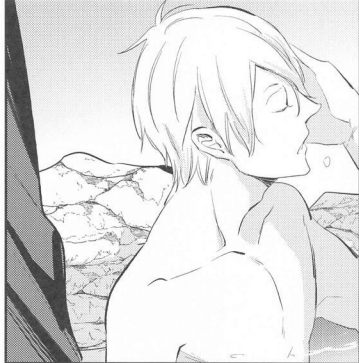


水木いー

こっちじゃ
こっち



誰…



なんだ
ゲゲ郎か！
驚かせるなよ

いい湯じゃぞ

湯治だと思って
お前も入れ



まるで
女みたいに
色が白い…



ああ…
気持ちいい

な？
島で負った傷も
癒えるじやろ

ちゅる…



などと
吐かしていたが



「微量の妖力を
送っておるからな」



やはり俺は
ゲゲ郎と居ることで
癒されているのかもしれない！



いったい
どうやって……

奴の言う
祓うとは

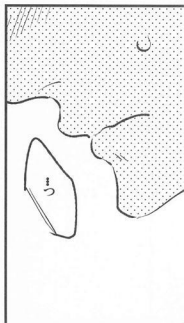
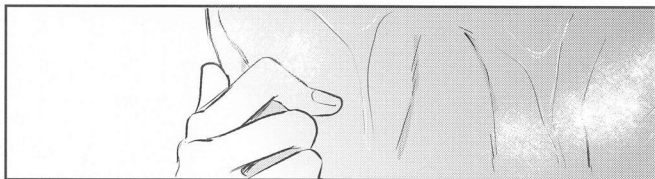


別に
見えない！

みっ……



何を
見ておる？







ゲゲ郎...



ああ
やっぱり

俺は頭がいかれて
しまったんだ



こんな夢

こんな夢



覚めるな



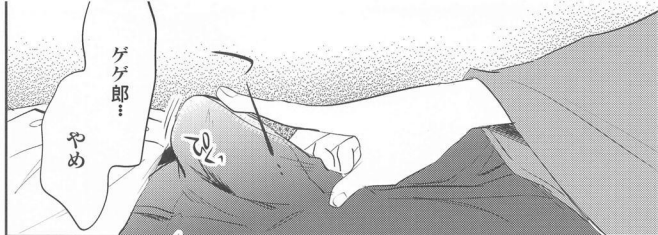
俺！
何か言ってたか？



何度も

わしの名を
呼んでおった

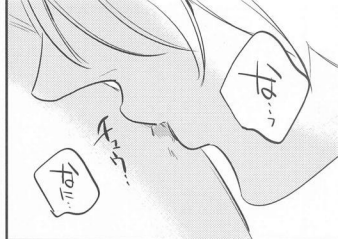
















水木おぬし——
初めてではないな

ちがう、
俺は……ッ
んんっ
……はっ



気にするな

戦地では
珍しくもないと
聞く



ゲゲ郎……
おまえも……



GURU



わしの身体も

おぬしと交まじわりたいと言いっておる



ああ

妖怪は我慢が苦手だな



あつ
まっ…

あ…
あぁ—



中は—

ん…
やはり熱いな



想像以上
じゃ



冷やっこい肌からは
想像もできないくらい
熱いぜ…

ゲゲ郎だって





あっあっ…

ゲゲろっ

ほん

ほん

ほん

ほん

掴まっている

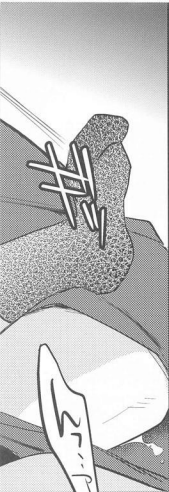


あ…はっ

ほん



んっ…
水木…っ





は…
またこんな…

は…

は…

は…



わしもそろそろ
限界じゃ

はっ

はっ

はっ

はっ



ゲゲ郎…
俺に吐き出せ

おっ？
奥に

俺はその晩

何度もゲゲ郎を求め
名前を呼んだ

やれやれ

こりや一箱では
足りぬわ

はっ

も...と...

ゲゲ郎??

ゲゲ郎

本当の名前は
最後まで知らなかった







気分は
どうじゃ

うなされる
こともなく
よう眠って
おったぞ

うん…
だいぶんマシ
…だな



おなご
女子の柔い胸でも
ないのに…
よく寝られる
ものじゃな



せんべい布団で
寝るのには
慣れつだからな



冷んやりした
この薄っぺらの胸が
心地良いんだよ

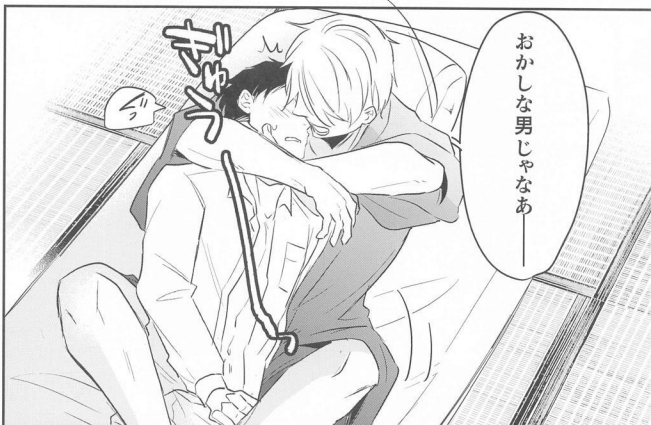
俺には

誰がせんべい布団じゃ
失礼な奴じゃの！

あはは
怒るなよ



ふん



おかしな男じゃなあ



ゲゲ郎が俺を

日向ひなたのように温めるのは

彼に大切なひとがいるから
なのかもしれない

なあゲゲ郎

どうしようもない
人生かもしれないが

俺は生きるよ



いる

倶楽部

いつかまた

きらびやかな東京の
薄暗い路地裏で会おう



お手に取っていただきありがとうございます。
ゲ謎の想定以上のロマンスにやられてしまいました…！
もう一度再会してガード下で酒を飲み交わしてほしいです(涙
エロが描き足りなかったので『父水地獄めぐり』で存分に描きたいと思います！

『げに恋しきは友のぬくもり』

2024.1.7 発行

heaven16 / すた

hiro119kuni@yahoo.co.jp

pixiv=3959036

@2ramvitz

印刷 丸正インキ

